1995.11.25

おーい図書館 No 25

市内図書館めぐり Ⅳ

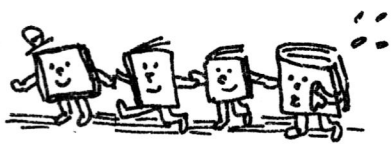
市川から越してきて

新松戸分館

私は松戸に来て、早速新松戸分館に足を運びました。小じんまりした図書館で、これはこれで落ち着いていて、丁度良い大きさなのかなと思いました。考えてみると、ここに全部揃っていなくても、予約するシステムで自分の思う本をとりよせられるということを知っていたから、そう思ったのかもしれません。現実的には、利用者が多い割には規模が小さいことは、その日のうちに読みたい本がすぐに手元に届かないというイメージを作ってしまうのではないかと思いました。

小金分館

後日、北小金分館に伺った時の広々とした空間は、とても開放的でした。奥にある読み聞かせなどをするスペースや絵本のコーナーが、大人の本と距離をおいて並べられていたり、子供のシートがあったりするところは、利用者に対する配慮がなされていて、やっぱり大型分館と呼ぶのはこの位のスペースのある所という感じがしました。せっかくのスペースですから、もっとアイディアを出して変えていけるのではとも思いました。又、窓口の対応が新松戸より明るいのも余裕がある(!?)せいかなとも思いました。



小金原分館

次に訪ずれた小金原分館は、市役所の分室やあらゆる施設でごったがえした建物の中にあり、入る時には息のつまるような感じがしました。

でも、ここは文学全集やシリーズものが充実しており、他の分館では一～三巻であったものが全巻揃っていたり、図書館本来の楽しみ、沢山の中から選ぶ楽しみが味わえました。これは、私にとって新しい発見でした。

確かに予約すれば本は届くのかもしれないが、そこに行けば、必ず思った本に出会えるという喜びが図書館には欠かせないということを強く感じました。それには、やはり、蔵書を充実させ、スペースを広げることが必要と思いました。

細く長く 図書館づくり

今までは、私自身、図書館とは本を借りに行くところぐらいにしか思っていませんでした。

それが、市川中央図書館の「友の会」に参加したことをきっかけにして、本を借りること、図書館を利用すること、図書館を活性化することが、どれだけ自分の生活にうるおいを与えるかを実感しました。松戸に来て、「おーい・図書館」の皆さんと出会い、地域のコミュニティーとしての図書館を自分達の要望通りに作りあげていくことが、どれだけ大変なことかわかりました。そして、自分のみならず、未来をになう子供たちや、さまざまな人々の生活に重要なことであるかを考えさせられました。

そして今、こういった様々な市民の取り組みに一人でも多くの人が関心を持ち、気負いなく自分のペースで参加し、応援していくことが、どれだけ自分たちの住む街を活性化させていく為の力になるかということを知りました。図書館好き、読書好き…思いのある人が、子供たちや友人・隣人に機会あるごとに伝えていく努力も、そういう意味では欠かせないことです。私も私の家族も、広い視野を持って、まわりを見渡せるように進んで前に出て、施設やコミュニティーを活用し、見守り、意見していこうと思っています。

（文・イラスト　山田明子）

発行　「おーい図書館」
連絡先　青木和子
松戸市稔台八三〇～六〇
〇四七三（六七）五三八四